

株式会社ワコールホールディングス

第72期定時株主総会

報告事項・決議事項

報告事項

- 第72期事業報告の内容、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
- 第72期計算書類の内容報告の件

決議事項

- | | |
|-------|-----------|
| 第1号議案 | 取締役8名選任の件 |
| 第2号議案 | 監査役1名選任の件 |
| 第3号議案 | 役員賞与支給の件 |

監査報告

招集ご通知 5 1、5 2ページ

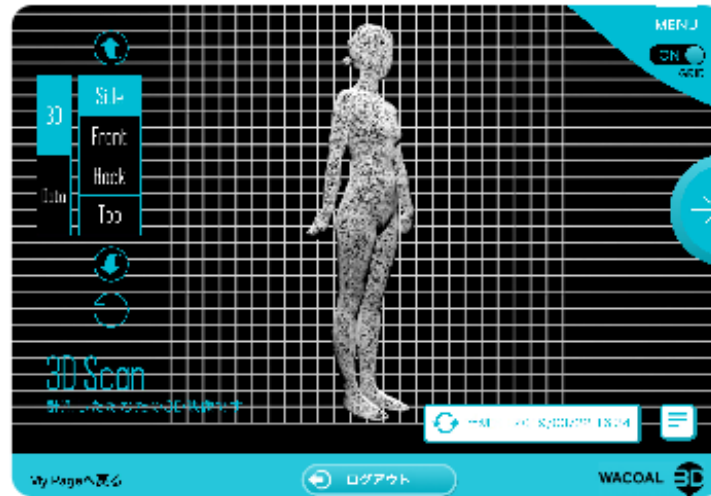
第72期（2019年4月1日～2020年3月31日）

- 事業報告の内容、連結計算書類の内容報告の件
- 計算書類の内容報告の件

営業の概況

■ 国内事業

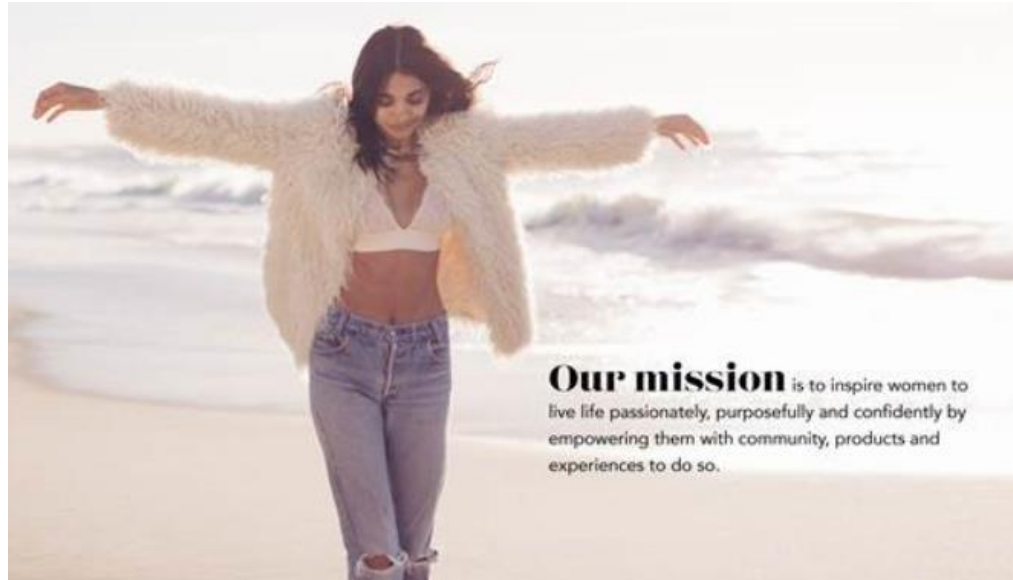
- 3DボディスキャナーやAIを活用した接客システムを導入するなど、イノベーションによる「顧客体験」の向上
- リアル店舗とインターネット販売の融合に向けて、顧客データベースを効率的に活用できる環境の整備



営業の概況

■ 海外事業

- ECでの成長機会の創出と競争力の強化に向けた取り組みを推進
- 米国の「LIVELY（ライブリー）」のブランドで知られるインティメイツ・オンライン社を買収し、完全子会社化



連結損益計算書（米国会計基準）

売上高

1,867億60百万円

前期比

3.8% 減



営業利益

66億32百万円

前期比

35.9% 増



国内

- ・ 消費税増税後の需要低迷の長期化
- ・ 3月以降の外出自粛に伴う来店客数の減少

海外

- ・ 英国・米国における百貨店の低迷
- ・ タイの材料会社の苦戦や円高影響
- ・ 3月以降の主要都市のロックダウン措置の影響

国内

- ・ 株式会社ワコールの卸売事業の減収影響やIT関連費用の増加

海外

- ・ インティメイツ・オンライン社の営業損失の取り込みや買収に係る一時費用の計上
- ・ タイの材料会社の有形固定資産の減損損失
- ・ のれん及びその他の無形固定資産の減損損失について、前期より損失額が減少

連結損益計算書（米国会計基準）

税 引 前
当期純利益

43億59百万円

前期比 97.9% 増 

当社株主に
帰属する
当期純利益

34億72百万円

前期比 918.2% 増 

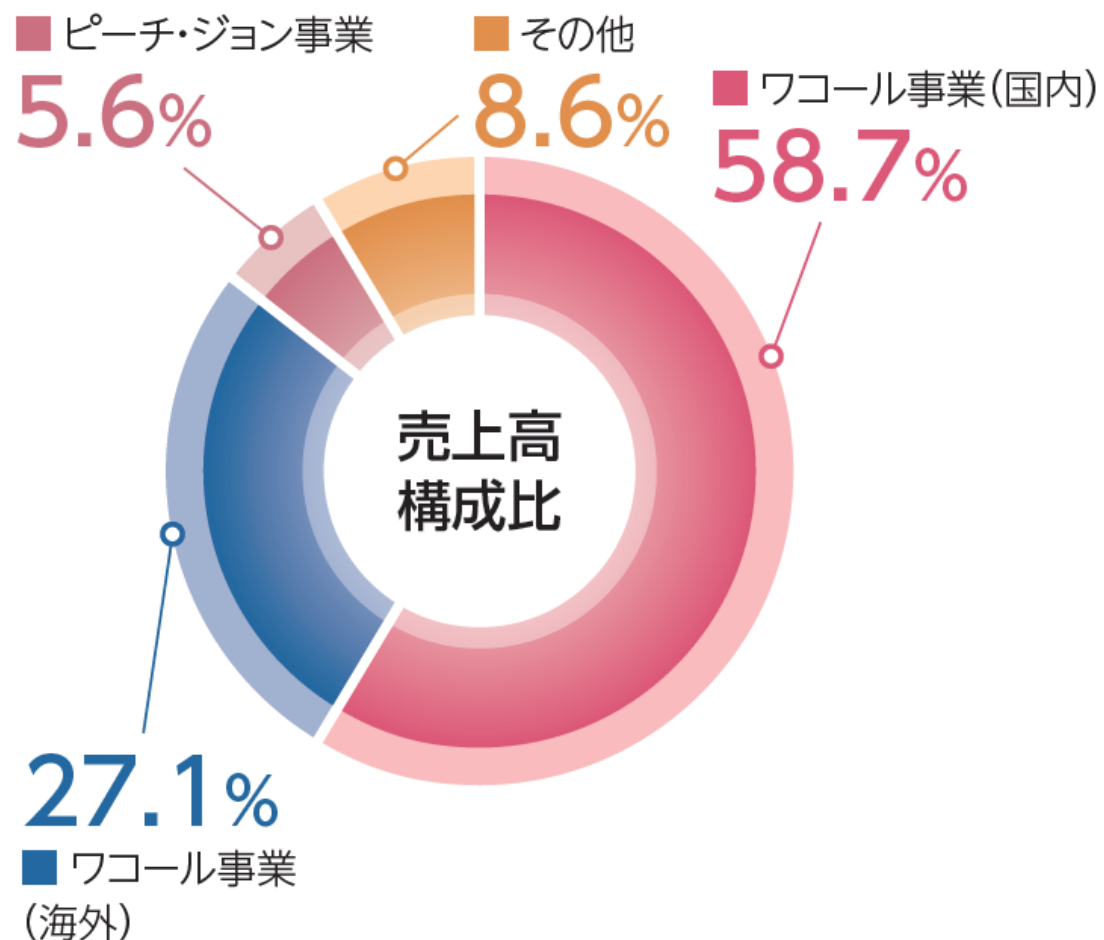
- ・ 有価証券・投資評価損益の損失額が減少

一株当たり
当社株主に
帰属する
当期純利益

54円26銭

前期比 49円10銭 増 

オペレーティングセグメントの実績



▶ オペレーティング・セグメント情報

	売上高 (百万円)	前期比 (%)
ワコール事業(国内)	109,709	96.7
ワコール事業(海外)	50,552	95.2
ピーチ・ジョン事業	10,480	99.9
その他	16,019	93.1
計	186,760	96.2

(注) セグメント情報は、米国財務会計基準審議会会計基準書280「セグメント報告」を適用しております。

連結貸借対照表（米国会計基準）

資産合計 **2,776**億88百万円（ 40億79百万円）

- ・ 投資有価証券の売却や評価額の減少

負債合計 **682**億40百万円（ 76億17百万円）

- ・ 会計基準の変更の影響

株主資本合計 **2,053**億71百万円（ 111億23百万円）

- ・ 利益剰余金や為替換算調整勘定の減少

一株当たりの株主資本 **3,291**円06銭（ 30円51銭）

設備投資

設備投資総額 **69億81**百万円

- 情報システム投資
- 不動産の維持補修工事

株主様への還元

配当金についてのご案内

第72期の期末配当

1株あたりの配当金 20円

(1株あたりの年間配当金 60円)

配当お受け取り開始日 6月3日

第72期

事業報告

連結計算書類

単体計算書類

ご説明を終わらせていただきます

2021年3月期の連結業績予想について

現時点におきましては、
新型コロナウイルス感染症による当社グループ
への影響を見極め、合理的に業績の見通しを
算定することは困難であることから、
2021年3月期の連結業績予想については未定
とさせていただき、詳細が明らかになり次第、
速やかに公表いたします。

ワコールグループの再出発に向けて

～当社グループにおける感染症の影響と

新型コロナウイルス感染症を踏まえた当社グループの方針～

当社グループにおける新型コロナウイルス感染症の影響

1. 各国の営業状況

	営業状況	売上高対前年増減率	
		4月	5月
ワコール（日本）	4/7以降、百貨店・直営店は全店舗休業（一部量販店は営業） 5/11以降、一部地域で営業再開	▲72%	▲50%
ピーチ・ジョン（日本）	4/7以降、直営店は全店舗休業 5/11以降、一部地域で営業再開	▲19%	▲7%
米国ワコール	4月末日時点で、全店舗休業	▲68%	▲55%
ワコールヨーロッパ	4月末日時点で、ほぼ全ての地域の店舗が休業	▲74%	▲45%
中国ワコール	1/23の都市封鎖以降、3月末にかけて順次営業再開 4/20時点で全店営業再開（改装予定除く）	▲37%	+11%

当社グループにおける新型コロナウイルス感染症の影響

2. 流通チャネルや、消費価値・購買行動が急激に変化

- 「不可逆の変化」と「一時的な影響」の見極めが重要。仮説は立てるが、早急な判断は危険。



■ 流通チャネルの動向

- ・百貨店/量販店の低迷
- ・ECやグローバルSPA躍進

既存流通チャネルの衰退、ECシフトが加速。店舗の役割がどう変わるか、現時点では未知。

■ 消費者の変化

- ・社会で活躍する女性の増加
- ・装いのカジュアル化
- ・節約志向

在宅勤務が働くスタイルの一つに。それとともに、カジュアルも変化。一方、消費の節約志向は継続。

当社グループにおける新型コロナウイルス感染症の影響

3. グループ全体で「健全な危機感」が一気に醸成

■従来のワコールの強みや提供価値は、新しい生活様式の中で通用するのだろうか？

- ・ 「これまでの密接した接客スタイルによる販売方法は、この先、受け入れられるのだろうか？」
- ・ 「新しい生活様式でお客さまが求める商品やサービスに、私たちは応えられるのだろうか？」
- ・ 「販売チャネルの大変革に、従来のビジネスモデルで対応できるのだろうか？」

新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえた 当社グループの方針

【基本方針】

- お客さま・従業員・お取引さまの、「健康・安全」を最優先として対応

【短期的な方針】

- 経営悪化を踏まえた徹底的なコスト削減の実行と、財務基盤の安定性確保
 1. 事業領域全般にわたり、これまでの施策や支出計画の大胆な見直しの実行
 2. 感染症の長期化に備えた、手元流動性の強化
 3. 売上減少に伴う過剰在庫の回避に向けた生産調整

新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえた 当社グループの方針

【中長期的な方針】

■バリューチェーンの徹底的な点検と改革の実行 ～「高収益の経営体質」に向けた転機に～

1. 現状のコストストラクチャーの見直し
(固定費削減に向けた取り組みの推進)
2. 国内・海外ともに、デジタル・トランスフォーメーションの取り組み加速
3. お客さまとのタッチポイントの見直し・再整備
(変化する主要チャネルへの対応)
4. 「新しい生活様式」で顧客が待ち望む商品・サービスの開発、新たな接客や販売スタイルへの対応力強化